

2:12 律法なしに罪を犯した者はすべて、律法なしに滅び、律法の下にあって罪を犯した者はすべて、律法によってさばかれます。

2:13 それは、律法を聞く者が神の前に正しいのではなく、律法を行なう者が正しいと認められるからです。

2:14 ・ ・ 律法を持たない異邦人が、生まれつきのままで律法の命じる行ないをするばあいは、律法を持たなくても、自分自身が自分に対する律法なのです。

2:15 彼らはこのようにして、律法の命じる行ないが彼らの心に書かれていることを示しています。彼らの良心もいっしょになってあかしし、また、彼らの思いは互いに責め合ったり、また、弁明し合ったりしています。

・ ・  
2:16 私の福音によれば、神のさばきは、神がキリスト・イエスによって人々の隠れたことをさばかれる日に、行なわれるのです。

すべての人が神様の前には罪ある者なので、そのことをパウロは明かにしていきます。当時ユダヤ人は、自分たちは特別なので罪はないと思っていました。しかしパウロは「神にはえこひいきなどはない」と語ります。

同じようにクリスチャンであっても、つまり神の子としていただいた者でも、罪は罪です。クリスチャンだから大目に見てもらえるということもないのです。

しかし、クリスチャンは新しく神から生まれたものなので、神の価値観に従いたいという思いが与えられています。神様に逆らい続けると苦しくなり、やはり神に従いたいという思いが出てくるのが自然なのです。

「生まれつきのままの律法」と言われる、良心も

また主のみこころです。「律法を行う者」でありましょう。かつては「神のさばき」にあうべき者でしたが、今は十字架によって赦されて新しく生まれたものですから、その確信を持しましょう。そして主に従うことが最も嬉しいことなのだという確信を持ちましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

